

## Nuclear Free Now 参加の記録

Nuclear Free Now の一環として、そして IAEA（国際原子力機関）と政府主催の『原子力安全に関する福島閣僚会議』に対する抗議行動の一環として行われたくさよなら原発世界大集会>とく脱原発世界大行進>に参加してきた。

いつも、東京で開かれる抗議集会や抗議デモに行く時、この交通費を福島の子供たちや色々な脱原発反原発を戦う団体にカンパした方がいいのでは？などという想いに駆られる。一方、一人でも多く抗議行動に参加しなくてはとの想いもあり、エイヤアといつも参加してきた。抗議行動に参加することの意味をもう少しよく考えてみなければならない（別の機会に）。

朝早いのは辛いので、8時41分発のくはやて>で出発、車中、読みかけのく原発ゼロ社会へ！新エネルギー論（広瀬隆著、集英社新書）>をほぼ読み終わる。納得する。必読文献。

11時過ぎ、東京到着。地下街のタイ料理屋に直行、タイ・カレーで早めの昼食を済ませて、有楽町へ。もう、雨が降り出している。日比谷公園に着くと、噴水広場ではくこれからのエネルギーと環境を

考える市民広場>と称して、幾つものテントが。まだ人出は少ない。雨が結構強くなってきたので、Nuclear Free Now の本部のテントで、雨合羽のズボンをはかせてもらう。

大集会の開かれる日比谷野外音楽堂前に12時少し前に着く。12時開場とのことだったが、入場できるので入ってみると、雨にぬれたコンクリートのベンチに何人かがいるだけで、閑散としている。外国からの取材の人2人（と通訳らしき人1人）が取材の準備をしているので、どちらから来たのか訊いてみると、Al

Jazeera との答え、毎日、Al Jazeera English のニュースを見ていると言ったら、喜んでくれた。英語が出来れば、ここでもっとお話しが出来たのにと何時ものように残念に思う。

雨の日比谷野外音楽堂、前の方の席に一人座っている男性に近づいて話しかけると、話好きな人で、色々なことを教えてくれる。昨日の官邸前金曜抗議集会には、かなりの方が集まった。最近減少傾向にあったが、昨日は小沢一郎が来たので沢山集まったとのこと。



報道陣も沢山来たが、報道はほとんどされないですねとのこと。この方は、私と同じ歳で、学生運動や組合運動もやっていた人の様だ。NTTに務めていたらしく、フランスにも1年位いたようだ。フランスでは、年金の支給年齢が引き上げられるときには、ゼネストと300万人のデモがあったとのこと、6000万人の全人口に対して5%ですよと、熱く語る。若い時は文学青年だったとのこと、アンドレ・ジイドが好きで、アンドレ・ジイドはゴリキーがなくなった時、モスクワの葬儀に参加、帰って来て、ヨーロッパ左翼の中では初めてのソ連批判＝スターリン批判をした人だと教えてくれた。1936年とのこと、スペイン人民戦線の時代だ。今は、日本の状況に関してかなり失望している様子で、政治的な冤罪事件に関心を持っているようだ。小沢一郎の件も冤罪で、完全に白、小沢一郎に期待しているようだ。結構強い雨の中で話しこんでいると、1時少しすぎから集会が始まる。振り返ると、コンクリートの椅子席は、7割の入りか？ 椅子席の周りを囲むように、傘をさして立っている人が多い。この雨では、椅子席に座ることはできないからだ。



集会は、鎌田慧さんの挨拶から始まり、田中優子さん、ちょっと順番は忘れたが、東京都知事候補の宇都宮けんじさんの飛び入りの挨拶があり、盛り上がる。続いて、イタリヤから来た人とリトアニアから来た人の連帯の挨拶、2人とも、通訳付きの英語の挨拶、ゆっくり話すので、少しは理解できた。そして、福島からは、大賀あや子さん、ゆっくりと間を置きながら話す様子は、話をするのもつらい様な様子。福島は本当に大変なのだ。最後に、六ヶ所村の友達が作

ったという反原発ソングを歌ってくれる。集会の最後は、澤地久枝さんの挨拶。

挨拶は、それぞれ違った視点からのものだが、どなたも、これからは大変な時代になる、覚悟を決めて、やり抜かなければならないという意味のことを訴えていたように思う。参加者は、1600人とのこと。

集会終了後、デモは野外音楽堂の裏側の中幸門から、集会の呼びかけ人・賛同人を先頭に出発。





私は、帰りの新幹線の時間のこともあるので、なるべく前に行って、サウンドデモの最後に着く。というか、そういうことになってしまった。岩手の会の横断幕(?)をとりだして、2人の女性に横断幕をもってくれる様に頼むと、快く引き受けてくれた。デモ隊は、なかなか出発しない。岩手の会の横断幕は、なかなか評判がよい。はじめじっと見ていてそれから写真を撮る人が結構いる。一緒に横断幕をもってくれた女性にも誉められる。フランスから来たというAFPと書かれたテレビカメラをもっている人にインタビューされる。岩手の会の横断幕と私の醜い姿がフランス中に流れているかもしれない。前ページの写真は、もう一人の女性にちょっと幕をもってもらって撮ったもの。

かなりの雨の中、5列の隊列でいよいよ出発。行進中も、岩手の会の横断幕の写真を撮る人あまた。サウンドデモのコールは、なかなか調子がよい。コールの前の何とかかんとか調子に合わせて言っているのは、良く分からない。盛岡の金曜デモでは、<未来>という言葉はコールしてはならないと警察に言われたとか、でもこのデモでは<未来のために>と何回もコールした。

デモコースは、日比谷公園を出て(あのビルは関西電力、あのビルは中部電力との解説を聞き)東へ、東京電力の前を通過してガードを潜り銀座へ、銀座を北上して数寄屋橋で左折、内堀通りを西進、日比谷公園の東側に沿って南下、昭和通りまで行って右折、外堀通りでもう一度右折してゴール。

やはり東京の中心部だけあって、人通りも多く、デモ隊のこちらを見ている人も多い。こちらに手を振る人も。ゾロゾロついてくる人も多い。タンポポ舎の原田さんが駆け回っている。私服刑事と思しき人物も盛んに写真を撮っている。サウンドデモの中に、日大全共闘とか明大全共闘とかの旗をもっているシニアがいるせいか、なんだか、私服が多い様な気がする。

横断幕をもってくれていた女性が銀座の途中で抜けることになり、今度は2人の男性に横断幕をもつことを願う。そのうちの一人が、またまた話好きで、南相馬市に空間線量を測りに行っているとのこと、最初は測定を拒否されたり喧嘩になったりしたが、だんだん分かってもらえて、今は細かな(30メートル位の間隔の)測定をして、空間線量のマップを作っているとのことだった。南相馬市の南部の山に近いところの線量は異常に高く。そこに住んでいるお年寄りの話もしてくれた。話をしているうちに、デモ隊はゴールに到着。4時半くらい、2時間のデモだった。

公園に入ると、反原発首都圏連合のミサオ・レッドウッドさんがいたので、ちょっと声をかけてお話。今日のデモは、1万人弱位かなあとのこと、スタッフが今数えているとのことだった。来年3月にも大きな集会をやるから、来て下さいとのこと。写真を1枚撮らせてもらう。雨もほぼあがったので、Nuclear Free Nowの本部のテントで、雨合羽のズボンを脱がせてもらう。

デモ隊の進み方が遅いので、新幹線に間に合うかちょっと焦ったが、意外に早くゴールに到着、さっさと日比谷公園をあとにして、有楽町駅へ、そして、帰りも東京駅の地下街でタイ・カレーを食べて帰ってきた。

2012年12月16日(MK記)

